

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079900223		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム しじみ苑		
所在地	福岡県田川郡大任町大字今任原3484-1		
自己評価作成日	平成23年1月6日	評価結果確定日	平成23年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者さんがその人らしく生活できるように、一人ひとりの希望・能力に応じた支援に努めている。 ・利用者さんが家庭的な雰囲気の中、安心して暮らせるようにスタッフが一丸となり、笑顔を大切にしたケアに取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「一人はみんなの為に、みんなは一人の為に」を揚げ一人ひとりの個性を引出しながら、思いやる気持ちを忘れないように理念をいしきして業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣には、保育園・小学校・中学校・町の行事（文化祭・敬老会）併設したケアハウスがあるので、お祭りや運動会や職場体験などで交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な取り組みなど現状行っていないが、運営推進会議などを利用して行政や地域の民政委員・区長さんに相談を行い、交流に取り組めるようにつとめています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政職員・区長・民生委員・家族で構成され2ヵ月1回開催しています。内容は事業所報告・入居者さんの生活状況などを報告を行い、参加者の方々からアドバイスを受け意見交換を行い、サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同じ市町村住民である代表者・スタッフとの交流があるので、会議以外でも分からない事・共に取り組まなくてはならない事などに対して相談したり・話し合いをしてサービスの向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内で研修を行い、スタッフ全員が身体拘束しないケアを理解認識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内で研修を行い、スタッフ全員が高齢者虐待の防止を認識しており入居者さんがその人らしいペースで生活されることを重視しています。		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレットを玄関に置き誰でも見られるようにし、家族から相談されたら、話し合えるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、重要事項を分かりやすく、丁寧に説明している。起こりうるリスクや医療連携体制については同意をえるように話している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族が意見・要望を言える信頼関係を築けるように努力をしている。要望があれば話し合いの場を持ち対応している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催しており業務・利用者さんに携わる事棟の意見や提案を求めている。また、日頃の業務を遂行していく中で、意見が言いやすい環境作りに心掛けて運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の異動・離職の際は、利用者さんへのダメージを最小限にすることで、新たな職員には、十分な引継を行うことで利用者さんに対する不安感に配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、年齢・性別などの制限はなく、ヘルパー2級の資格を取得していることを基本にしている。本人の意欲や入居者とのなじみの関係を考慮し採用の際は、代表者と管理者が決定している。採用後は介護福祉士を所得してほしい事を伝える。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の機械が少ないので、日々のケア・サービス提供・ミーティングの際に入居者への対応・コミュニケーションなどについて話あっている。		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職種に応じた研修に参加できるように配慮している。研修報告と勉強会をその都度行い、スタッフ全員が共有できるようにしている。自ら参加できるように情報を提示している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や病院（医療）研修などに参加して情報やネットワークに取り組めるように働きかけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを一番に考える。その中で今までの生活が継続できるように十分な面接を行うとともに家族の希望を聞いた上で本人と話せる雰囲気を作るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が遠慮なく相談してもらえる雰囲気を作るように努めている。苑に対しては、不安に思っていることや悩んでいる事などを遠慮せずに話していただけるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちが一番に対応するなかで、家族との連携を取りながら、日々の生活の中からその人に合ったサービス提供・支援が出来る様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に暮らしている人」として信頼関係を深める努力をしている。利用者さんの気持ちを受け入れることで、互いに協働しながら和やかに接している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、問題・困っていることを話すだけでなく、利用者さんが苑で見せる笑顔・楽しかった事を家族に話せる事も支援の一つであるとをもうので、家族と協力しあい利用者さんを支えながら関係作りに努めたい。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族の面会があるので、家族の方々に外泊・外出を勧めている。外泊が困難でも家族で食事に出かけたり・ドライブに行ってもらったりと関係が疎遠にならないように支援・協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事・おやつの時間にスタッフも加わり会話が出来るように調整役となっている。皆さんで楽しく過ごす時間の場面作りや利用者同士の関係や力を配慮して座る場所などを考慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了の理由も色々あるので、その理由により家族の不安感の一つでも把握して相談や支援をさせていただくことを伝えている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活・思いを把握して取り組んでいる。日常の会話・観察からその人のことを理解できるように努力をしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの生活歴・思い出などをコミュニケーション・家族からの情報から把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中だ、何らかのサインが現れる事があるので、日頃から個人の状態観察を行いながら、介護記録に記入しひとりひとりの状態観察に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや毎日の業務の中で利用者さんの情報をその時その時に話し合い、定期的に来られる家族にも話し合いその意見を反映されて計画書を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつ、誰が見てもわかるように一日のバイタル・生活の様子を記録している。本人の言葉や計画に対する様子などを記載し情報を共有している。		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じて定期受診・体調不良時の受診はスタッフが同行するなどの柔軟な対応を行っている。隣接するケアハウスとも交流している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員・区長・町村との交流も円滑に図れるようになり、季節の行事（敬老会・文化祭・）小学校との交流・中学校体験学習・運動会見学・保育園との交流と交流しながら支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される、かかりつけ医となっている。基本的には家族同伴の受診となっているが都合によりスタッフが代行している。訪問診療もあり医療機関と関係を密にしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護が受診されるので、些細な事でも相談したりと日々の健康管理や様子観察を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関の相談員・本人・家族と情報交換を行い本人の安心につなげている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より不安をもつ家族の相談に応じている。入居者の状況の変化に応じて話し合いを行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修（消防署）を取り入れ応急処置・手当て・AEDの体験を取り入れている。緊急時・応急手当のマニュアルを作成し周知徹底・内部研修も行っている。（年1回）		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域消防署の協力を得て避難訓練・消火器の取り扱い訓練を行っている。内部研修も行っている(年1回)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあわせて言葉を選んだり、利用者さんの尊厳を大切に、個々に合わせた対応を行っている。尊厳・プライバシーに対しては、対応できるように常に話し合い努力している。個人情報の取り扱いについても配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、常に一人ひとりに声掛けを行い、本人の思い・希望を伺い、自己決定ができるように働きかけている。意思表示が難しい方に対しては、本人が表示しやすい声掛けを行ったり表情・反応を注意深く受け止め対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが本人のペースに合わせて過ごしている。日中はテレビルームで過ごすことが多いため、歌を歌ったり、談話したりし好きなように過ごしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備は一緒にやり、1ヶ月に美容院に来てもらい本人の希望に応じてカットをしている。個人的には、起床時・トイレの後などに洗面所へ立ちくして髪を梳いたりと鏡チェックを行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片麻痺・皮膚疾患がある為に材料を切ったりすることが困難な方がいるので、後かたづけ・テーブル拭きなど本人の出来る範囲の事をして頂いてます。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限のある人には、量や塩分に気を付けている。1人1人の毎日の食事・水分・食事量チェック表を元に調理をし、バランスのとれた食事の工夫をしている。水分量の足りない方には声かけして水分が取れるように工夫している。		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声かけを行い、自立をされている方は確認を行い、介助の方はスタッフが行う。週1回、訪問歯科による口腔ケアを行うことで汚れ・臭いも軽減される。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン表を確認しながら随時トイレ誘導・声かけを行う事で失敗も減っている。失禁・排便は本人のプライドを傷つけないように配慮しながら介助を提供している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操などを運動を行っています。食事面では、消化のよい物・牛乳などを摂取している。また、便秘が3日間以上の時は、訪問看護に相談を行い対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を行っています。入浴前心身の体調に留意し1対1の個別入浴で事故の無いよう見守り・介助支援をしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室への入室など制限な、ホールを含み自由に行動をし特に昼食後は、挙上の為の体調維持や心身のリラックスの支援をしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のファイルに処方箋を挟み全スタッフが内容を把握できるようにしています。誤訳の無いように注意を行っています。眠剤・安定剤など使用時はフラツキ・歩行困難など様子観察・転倒事故にならないように声かけ・見守り介助を行っています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の前後のテーブル拭き・洗濯物タタミ・棚やベットの拭き掃除など、その方のできることを提供している。毎月、併用しているケアハウスに歌・踊り・音楽レクなどがあるので楽しみの時間を持っている		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて散歩・体操・野外で歌を歌ったりしている。季節を感じていただくために、ドライブに行き季節の野花を見たり、外の空気に触れたりすることで利用者さんが季節を肌で感じるように支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得てお金を持って居る方もいます。また、家族よりお金を預かりホームで管理している方もいる。買い物の時に自分で払うなど満足してもらえるように工夫している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの要望があれば、いつでも電話がかけられるように支援している。家族からかかった時も支援を行っています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間とキッチンが対面式となっているので家庭的雰囲気です。居心地の良い場所となっています。苑内には、季節の花があるので天気の良い時は散歩に行き、季節感を感じていただいています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って横同士で話をされたり、テーブルで向き合って昔の話をされている。時々居眠りをされたりと自分自身に合った過ごし方をしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に自分の作品や家族の写真等を貼ったり、面会時に季節の花を持ってきて飾ってくださるので気持ちが和まれるようにしています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を起こさないよう状況に合わせた環境整備に努めている。不安や混乱を招かないよう要因になる物を取り除く対応をしている。		